

平成23年度（平成22年度対象）

南丹市教育委員会
点検・評価報告書

平成23年9月

南丹市教育委員会

平成20年4月「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、教育委員会は毎年、教育行政事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされました。

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条の規定に基づき、南丹市教育委員会が毎年度示す「指導の重点」の推進施策について事務の執行状況について点検・評価したものです。

南丹市教育委員会は、今後も教育環境の整備・充実を図るとともに子どもたちの「生きる力」を育む教育の推進に努力していきます。

南丹市教育委員会

教育委員会委員名簿（平成22年度）

職名	氏名
委員長	林昌明
委員長職務代理	湯浅照夫
委員	小寺直見
委員	武田義史
教育長	森榮一

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1 教育委員会議の開催状況

教育委員会議については、原則として毎月1回「教育委員会定例会」を開催し、必要に応じて臨時会を開催しました。

また、任意の協議会として議題を決めて意見交流会を開きました。

平成22年開催教育委員会議

- (1) 教育委員会定例会・・・12回
- (2) 教育委員会臨時会・・・2回
- (3) 任意協議会・・・5回

2 教育委員会議での審議状況

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第23条に定める職務について、同法第26条及び「南丹市教育委員会教育長事務委任規則」の規定に基づき、平成22年度は合計で23件について審議しました。

- (1) 教育に関する事務の管理及び管理及び執行の基本的な方針・・・8件
- (2) 教育委員会規則等の制定及び改廃・・・・・・・・・・・・・・・・6件
- (3) 職員（教職員を含む）の人事に関する事・・・・・・・・・・・・4件
- (4) 法令又は条例に定めのある附属機関の委員の委嘱・・・・・・・・3件
- (5) その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2件

3 教育委員会活動

(1) 学校訪問

実施日時 前期 平成22年5月20日（木）、27日（木）

後期 平成22年10月20日（水）、11月25日（木）

参加者 教育委員4名、事務局6名

訪問先 16小学校 4中学校

(2) 民生児童委員協議会との意見交流会

実施日時 平成22年7月6日（火）

参加者 教育委員4名、教育委員会事務局4名
民生児童委員協議会10名

(3) 南丹市PTA連絡協議会役員との意見交流会

平成22年10月18日（月）

(4) 学校評議員交流会

平成22年11月24日（水）

4 教育行政事務の取り組み状況について点検・評価

(1) 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、本市教育の「指導の重点」に基づき、学校教育及び社会教育に関する方針にある推進施策としています。

(2) 点検・評価の構成

① 評価対象

「平成22年度 指導の重点」の教育方針に基づき、項目ごとに点検・評価を行っています。

② 事業内容・対象者等

各項目の具体的施策の事業内容、対象者等を示しています。

③ 成果・課題等

事業の実施に伴い、成果が得られた内容や課題を示しています。

④ 総合振興計画実施計画上の位置づけ

南丹市総合振興計画「実施計画」は基本構想に示した本市の将来イメージ「森・里・街がきらめく ふるさと南丹市」を実現するための具体的な計画を示しています。

(南丹市総合振興計画『実施計画』は、基本構想に示した本市の将来イメージ「森・里・街がきらめく ふるさと南丹市」を実現するため、将来にわたる財政の見通しや行政改革推進の視点に立ち、基本計画で定めた施策の方針に基づいて実施する事業について、その具体的な内容や事業費等の計画をお示しするものです。)

⑤ 内部評価

評価判断基準 A・・・計画どおり又は計画以上の成果が得られた
B・・・課題は残しながらも概ね目標は達成できた
C・・・課題を残し目標も十分達成できなかった
D・・・検討段階で具体の成果はなかった

⑥ 担当課

事業を実施した担当課の名称を示しています。

平成22年度 評価項目一覧表

大 項 目	中 項 目	小 項 目 (頁)	総 合 振 興 計 画			
1. 基礎・基本の徹底と考える力の育成による学力の充実・向上と個性を生かす教育の推進	(1)卓越性を目指した特色ある学校づくり	①教育研究委託事業	6	第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る	2 明日を担い、内外で活躍する人を育てる	(2)学校教育の充実
		②教育振興事業	6			
		③理科教育設備整備等事業	7			
		④学校図書購入事業	7			
	(2)学習指導	①学力充実、少人数指導事業	8			
		②学校図書館有効利用方法調査研究事業	9			
	(3)進路指導	①京の子ども夢・未来体験事業	9			
	(4)特別支援教育	①就学指導委員会運営事業 及び、特別支援教育支援員の配置	10			
		②通級教室指導事業	10			
	(5)就学前教育	①幼児教育推進事業	11		1 安心して子育てを支援する仕組みづくり	(4)就学前教育の充実
		②子育て支援事業	11			
		③もうすぐ1年生事業	12			
		④すこやか学園	13			
	(6)小規模・へき地教育	①山村留学事業	14			
2. 豊かな人間性を育む教育の推進	(1)道徳教育	①道徳教育	15	2 明日を担い、内外で活躍する人を育てる	(2)学校教育の充実	
	(2)人権教育	①人権教育	16			
	(3)生徒指導	①生徒指導	17			
	(4)芸術文化活動	①芸術文化活動	18			
	(5)体育・スポーツ活動	①体育・スポーツ活動	19			
	(6)健康安全教育	①安全対策事業	20			
②学校給食施設管理運営事業		20				
3. 社会の変化に対応する教育の推進	(1)国際理解教育	①外国青年招致事業	21			
		②小・中学校英会話事業	21			
		③外国語活動実践研究事業	22			
	(2)環境教育	①環境教育	23			
	(3)情報教育	①情報教育	24			
4. 教職員の資質能力の向上	(1)教職員研修	①教職員研修事業	25			

大 項 目	中 項 目	小 項 目 (頁)	総 合 振 興 計 画			
5. 安心・安全な学校づくり	(1)通学対策	①通学対策事業 26	第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る	2 明日を担い、内外で活躍する人を育てる	(2)学校教育の充実	
6. 生涯学習社会の実現	(1)生涯学習の振興	①講座開設事業(公民館事業) 27		第4章 共に担うまちづくりの仕組みを築く	3 生涯にわたって学び生かす機会をつくる	(1)生涯学習拠点施設の充実
		②講座開設事業(博物館・郷土資料館) 28				
		③講座開設事業(図書館) 29				
	(2)社会教育関係団体などとの連携・協力	①団体育成事業 30				
7. 人権教育の幅広い展開	(1)人権に関する学習機会の提供	①人権教育事業(人権教育講座) 31	第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る	1 共に生きるまちづくりを進める	(1)人権啓発の推進	
	(2)男女共同参画社会の実現に向けた学習活動	①人権教育事業(主任・推進委員研修会) 32			(2)男女共同参画社会の推進	
	(3)高齢者の生きがいづくりと社会参加	①福祉・紅が丘大学、南丹大学 33			3 生涯にわたって学び生かす機会を作る	(1)生涯学習拠点施設の充実
	(4)障がいのある人の自立と社会参加	①障害者成人講座 34				
8. 家庭・地域社会の教育力の向上	(1)家庭教育力の向上	①家庭教育支援事業 35	第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る	1 安心して子育てできるまちをめざす	(1)地域全体で子育てを支援する仕組みづくり	
	(2)地域社会の教育力の向上	①青少年活動事業 36			3 生涯にわたって学び生かす機会をつくる	(1)生涯学習拠点施設の充実
			②放課後児童健全育成事業 37			(4)スポーツレクリエーション活動の振興
9. 文化・スポーツの振興	(1)スポーツ	①体育指導員活動事業 38	第2章 自然・文化・人を活かした郷を創る	3 生涯にわたって学び生かす機会をつくる	(2)生涯学習推進組織の育成強化	
		②社会体育振興事業 38				
		③青少年スポーツ育成事業 38				
		④団体育成事業 38				
	(2)文化活動	①文化祭事業 39			5 伝統文化を継承する	(1)歴史文化遺産の調査と保全
		②文化協会連絡協議会事業 39				1 豊かな緑と清流を守る
	(3)文化財の保護と活用	①文化財保護事業 40			5 伝統文化を継承する	(2)歴史文化遺産の周知と活用
		②文化資料保全補助事業 40				
		③かやぶき屋根保存修理事業 41				
		④重伝建地区保存修理補助事業 41				
⑤埋蔵文化財調査事業 42						
⑥展示会事業 42						

教育委員会の点検と評価

1. 基礎・基本の徹底と考える力の育成による学力の充実・向上と個性を生かす教育の推進

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(1) 卓越性を目指した特色ある学校づくり	教育研究委託事業 (内容) 基礎学力の充実のための教材研究や、人権教育の研究、体育スポーツの研究等を実践メニューとし、市内小・中学校の特色を生かした創意工夫により、研究事業を実施した。幼稚園においても学びの環境づくりをテーマとした就学前教育に係る研究実践を行った。 (対象) 市内園児・児童生徒	(成果) 学校規模は異なっているが、各校の創意工夫した研究内容が創出され、学校の特色づくりを通じた児童生徒の活動が展開された。幼稚園においても小学校での学びを見通した研究実践の積み上げがされた。 (課題) 実績に対する評価方法を含めて、研究実践の積み上げを今後どう生かしていくか。併せて、今後の研究課題として更に重要視される、中学校ブロックを研究体制とした小中連携事業に係る研究積み上げとの関連性の具体化を図ることが重要となる。	第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る 2 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる (2) 学校教育の充実		B	B
	教育振興事業 (内容) 児童・生徒用のコンピューターリース及び校外学習のためのマイクロバス借上げ、また児童・生徒用図書を購入、楽器や各教科に必要な教材備品の購入等、学校教育環境の整備を図った。 (対象) 市内園児・児童生徒	(成果) 子どもたちがコンピューターやインターネットを活用し、情報社会に主体的に対応できる情報活用能力の育成に効果が見られた。児童用図書や教育用備品を購入し学校教育環境整備を図った。学力の充実・向上の取組みを推進し児童一人ひとりの個性能力を図ることができた。また、地域社会の実情を活かした特色ある学校づくりの推進を図るための環境づくりを推進することができた。 (課題) より「魅力ある授業」を展開していくために、教育機器等の更なる活用を図るための手立てが必要である。また、子どもたちにインターネットの活用や危険性等「情報モラル」の指導を充実することも課題である。		学校教育課		

1. 基礎・基本の徹底と考える力の育成による学力の充実・向上と個性を生かす教育の推進

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(1) 卓越性を目指した特色ある学校づくり	理科教育設備整備等事業 (内容) 理科教育における教育効果をあげるために理科教育設備及び備品の整備を行った。 (対象) 市内児童生徒	(成果) 児童生徒の理科に対する関心を高める上で、理科備品の整備は重要であり、その整備により教育環境の充実が図れた。 (課題) 今後においても耐用年数を迎える理科備品の更新や理科への関心を高める新たな実験用備品の購入が必要である。	第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る 2 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる	学校教育課	A	A
	学校図書購入事業 (内容) 国語力、読解力の向上を図るため、学校備品として図書の購入・整備を行った。 ・小学校 17校 (1, 691冊) ・中学校 4校 (718冊) (対象) 市内児童生徒	(成果) 子どもたちの国語力、読解力の向上を図るための教材として、各学校に関係図書の購入を行った。 (課題) 今後においても計画的な図書の購入が必要である。	(2) 学校教育の充実		A	

1. 基礎・基本の徹底と考える力の育成による学力の充実・向上と個性を生かす教育の推進

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(2) 学習指導	<p>学力充実、少人数指導事業 (内容) 少人数教育・少人数授業を行うための講師を配置することで35人以下の学級編成を目指し、基礎学力の定着と、きめ細かな指導が行えるようした。 少人数指導の指導形態を活用し、学力充実に繋がる習熟度別学習等の指導工夫も行なった。</p> <p>(対象) 市内児童生徒</p>	<p>(成果) 少人数指導・学力充実指導が可能となり、よりきめ細かな指導をすることができた。</p> <p>(課題) 毎年度児童生徒の状況は変化している。この変化に対応しつつ上記成果を継続し、今後も必要十分な事業体制を組んでいくための行政施策の工夫した経営が必要となってきた。</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>2 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる</p> <p>(2) 学校教育の充実</p>	学校教育課	B	B
	<p>学校図書館有効利用方法調査研究事業 (内容) 美山中学校及び各中学校に「学校図書館支援スタッフ」を配置し、読書活動等を行うことを通じて読解力や言語力、情報収集力、情報活用力の育成等、学校図書館の有効な利用方法についての調査研究を行った。</p> <p>(対象) 市内生徒</p>	<p>(成果) 支援スタッフによる読書機会の提供、推薦図書通信の発行等の環境整備により、生徒の読書意欲は高まった。</p> <p>(課題) 単年度事業であるため研究成果を次年度以降に活かしていくことが課題である。</p>				

1. 基礎・基本の徹底と考える力の育成による学力の充実・向上と個性を生かす教育の推進

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(3) 進路指導	<p>京の子ども夢・未来体験事業 (内容) キャリア教育の一環として小学校4年生、中学校2年生を対象として、府委託事業（全額府費措置）を活用し、全31学級が市内事業所で職場体験活動を行った。 小学校では仕事に関する探究や仕事に関わる体験活動を1日程度、中学校では職場体験活動を複数日実施し、児童生徒の豊かな人間性や社会性の育成につなぐ事業として取り組んだ。</p> <p>(対象) 市内児童生徒</p>	<p>(成果) 学校ごとの計画により全小・中学校において職場体験活動を実施し、職業観や勤労観を身に付け、伝統文化を学ぶ重要な機会と体験の場を提供することができた。今年度においては、特に文化・芸術を生み出すことを生業とされている職場への訪問を推奨し、子ども達の豊かな感性の育成にもつなげることができた。</p> <p>(課題) 小学校の取組みを理解教育や交流学习に留めることなくキャリア教育に位置づけて実施し、中学校が実施している職場体験学習と接続・連携し、適切な進路指導の推進を図っていくことが課題である。</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>2 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる</p> <p>(2) 学校教育の充実</p>	学校教育課	A	A

1. 基礎・基本の徹底と考える力の育成による学力の充実・向上と個性を生かす教育の推進

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(4) 特別支援教育	就学指導委員会運営事業 及び、特別支援教育支援員の配置 (内容) 中学校ブロック毎に「育ちあう子らの集い」を実施した。組織を編成し、市内園児・児童・生徒の就・修学にかかる指導・相談事業を実施した。併せて、特別支援教育充実にかかる研修会を実施した。新たに早期発見・早期支援を目的とした「教育相談事業」を立ち上げた。 ・各中学校ブロック別の就学判定協議(延7回) ・代表者による連絡協議会(3回) ・丹波支援学校との交流事業(「育ちあう子らのつどい」)の実施 ・特別支援教育支援員の配置(小学校7校、中学校1校) (対象) 市内児童生徒	(成果) ・就学指導に関わって、特別支援教育に係る具体的な事例に関する、保・幼・小・中の連携体制が構築されてきた。 ・特別支援教育支援員の配置により、配置校における特別支援教育体制の確立とともに、学習態勢の整備ができた。 ・「教育相談事業」の実施に早期発見・早期支援の体制が確立されてきている。 (課題) ・就学指導に関わって、早期発見・早期指導を目的とした「教育相談事業」の充実について、専門性を含んだ人的体制を継続・発展させていく課題がある。 ・特別支援教育支援員を必要とする児童生徒が増加傾向にある中、人的確保をいかにしていくかが課題である。	第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る 2 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる (2) 学校教育の充実	学校教育課	B	B
	通級教室指導事業 (内容) 小中学校において通常の学級に在籍する比較的軽度の障がいのある児童・生徒に対し、その障がいに応じ、週に数回の通級指導を実施した。また特別支援教育を必要とする園児・児童・生徒にかかる教育相談・発達検査を実施した。3校、3教室。 (対象) 南丹市内の園児・児童生徒	(成果) 児童生徒への発達に沿った指導のほか、通級指導教室の専門性・指導性を継続・発展させるにあたり、その指導・支援の方法を広く市内の学校へ波及させることができた。 (課題) 特別支援を必要とする児童・生徒が増加傾向にある中、今後、益々、通級指導教室の存在が重要となってくると考えられ、その継続設置と適切な人的措置が課題となっている。				

1. 基礎・基本の徹底と考える力の育成による学力の充実・向上と個性を生かす教育の推進

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(5) 就学前教育	幼児教育推進事業 (内容) 子どもの発達や学びの連続性を確保する観点から幼稚園、保育所、小学校が連携し、情報の共有化・相互理解を図り、幼児がその後の学校生活に円滑に移行できるよう支援すると共に、職員の資質向上を図るため研修を行った。 (対象) 市内園児・児童	(成果) 保育所保育指針・幼稚園教育要領の改訂により、小学校への送付が義務付けられた、保育所保育要録・幼稚園指導要録を作成することができた。また、それらを小学校で効果的に活用する為の研修を実施し、子どもの育ちと学びをつなぐ連携の在り方を学ぶ機会となった。 (課題) 保育指針などの改訂により、保育所・幼稚園と小学校との連携、発達や学びの連続性がこれまで以上に重視される中で、情報の共有化・相互理解を一層図っていく必要がある。	第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る 2 安心して子育てを支援する仕組みづくり (4) 就学前教育の充実	学校教育課	B	B
	子育て支援事業 (内容) 子育て支援の一環として、特に家庭教育の充実を図るために、専門知識を持つ講師を招き講演会等を実施した。また保護者との面談や懇談による相談活動を推進するため、PTA及び教職員合同の研修会を実施した。また、心の教育を推進し、豊かな情操や感性を育む取り組みの一環として、歌う楽しさや、表現できる喜びが体験できるように音楽鑑賞会・人形劇鑑賞会を実施した。 (対象) 市内園児	(成果) 専門家の話を聞くことにより、子どもの発達過程を知ると共に、必要なかわりを学ぶことができ、親としての役割を再認識することにつながった。また、面談や相談活動を通して子育てを支え、不安を解消することにつながった。 鑑賞会の取組みでは、本物に出会う経験が豊かな心を育むことにつながった。 (課題) 子どもの成長と共に、親の悩みや課題も変化していくため、家庭教育の意義と必要性をおさえ、更なる充実を図ること。鑑賞会についても、情操教育の意義と必要性を捉え、充実を図ることが課題である。			B	

1. 基礎・基本の徹底と考える力の育成による学力の充実・向上と個性を生かす教育の推進

評価項目	事業内容・対象者		総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(5) 就学前教育	<p>もうすぐ一年生事業</p> <p>(内容) 就学前の保育と教育の取組を小学校に接続する事業として実施する。 この取組を基に幼稚園、保育所の継続性を深める。</p> <p>(対象) 対象園の園児</p>	<p>(成果) 施設見学・出前授業等、保育と教育との継続性を配慮した事業を実施した。 事業を通じて幼稚園・保育所と小学校の共通認識が深まった。</p> <p>(課題) 事業対象の幼稚園・保育所、小学校を全市各1組に拡大し、一層の事業の充実を図る必要がある。</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>2 安心して子育てを支援する仕組みづくり</p> <p>(4) 就学前教育の充実</p>	学校教育課	A	A

1. 基礎・基本の徹底と考える力の育成による学力の充実・向上と個性を生かす教育の推進

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
<p>(5) 就学前教育</p>	<p>すこやか学園 (内容) 2歳児の親子通園事業として「すこやか学園」を運営し、2歳児の発達の過程で子ども同士や親子が、気軽に触れ合い遊ぶことや、親同士が子育ての経験を交流することで、楽しく自信を持って子育てができるよう支援を行った。</p> <p>(対象) 市内2歳児親子</p>	<p>(成果) 日々の遊びを通して保護者が幼児の様々な姿を目の当たりにし、成長を感じたり必要なかわりに気付くことができた。同じ場で共感し、アドバイスしてくれる親や教師の存在が大きい。「子育ておしゃべりたいむ」や懇談会で、子育ての悩みを話し合い助言を受けることができた。子育てについて親の意識を高めるきっかけになり、親同士のつながりも深まった。幼稚園に併設されていることで、発達や成長の過程を知る機会になった。</p> <p>(課題) 育児不安や子育ての悩みを抱えている親の姿があり、親自身が相談の場や友達を求めている状況が見られる。発達や年齢にあった内容の充実が望まれる。 希望者が増加傾向であり、施設の整備等検討が必要。</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>2 安心して子育てを支援する仕組みづくり</p> <p>(4) 就学前教育の充実</p>	<p>学校教育課</p>	<p>A</p>	<p>A</p>

1. 基礎・基本の徹底と考える力の育成による学力の充実・向上と個性を生かす教育の推進

評価項目	事業内容・対象者		総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
<p>(6) 小規模・へき 地教育</p>	<p>山村留学事業 (内容) 南丹市美山山村留学センターを核とし、都市の児童を対象として、留学制度の確立と、自然環境の知識を深めるとともに児童をはじめとする都市住民と農村住民の交流を図った。</p> <p>(対象者) 山村留学希望の児童 長期留学生 7人</p>	<p>(成果) 本年度においても、運営委員会を中心に児童を中心とした都市と農村の交流が図れた。</p> <p>(課題) 都市児童を対象とした、都市と農村の交流を図る事業であり、地域振興を図る上での意義がある。 そこで平成24年度からは第2章の「自然・文化・人を活かした郷を創る」4「人を暖かく迎える」(7)交流事業に位置づけることが望ましい。</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>2 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる</p> <p>(2) 学校教育の充実</p>	<p>学校教育課</p>	<p>B</p>	<p>B</p>

2. 豊かな人間性を育む教育の推進

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(1) 道徳教育	<p>道徳教育 (内容) 府教委作成の道徳資料「京のこども明日へのとびら」を活用した学校における指導や、ボランティア活動や自然体験活動、読書活動等、社会教育部門との連携も含め、道徳性を育てる活動を展開した。また、平成21年度・平成22年度の2ヵ年間、文部科学省の「道徳教育実践研究事業」の指定（川辺小学校）を受け、その実践内容を広く市内の学校へ波及させた。 (対象者) 市内児童生徒</p>	<p>(成果) 各校の教育目標や特色を生かした全体計画を設定し、府教委作成の道徳資料を活用した指導の展開や、道徳の時間の授業公開をするなどの取組が見られた。研究実践校の先駆的な取組の研究報告会等を通じ広く浸透した。</p> <p>(課題) 「京のこども 明日へのとびら」やボランティア活動・自然体験活動等の体験活動を生かした、創意工夫ある指導の充実を図る必要がある。また、保護者や地域の人々の積極的な参加・協力を得ることのできるよう工夫していくことが重要となる。</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>2 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる</p> <p>(2) 学校教育の充実</p>	学校教育課	B	B

2. 豊かな人間性を育む教育の推進

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(2) 人権教育	<p>人権教育 (内容) 教育活動全体に人権教育を適切に位置づけ、児童生徒に人権問題についての正しい理解や認識の基礎と、自他を尊重する態度や実践力を培わせた。特に、同和教育を人権教育の重要な柱として位置づけ、体系的・系統的に、また、市関係機関や社会教育部門との連携により取組を進めた。また、進路保障と関わって、特に、同和教育上の残された課題の解決に向けた取組を行った。</p> <p>(対象) 市内児童生徒</p>	<p>(成果) 各校においては、人権学習資料集等を活用した年間計画に基づき、発達段階に応じた取組が行われた。 また、市教育委員会主催による人権教育担当者会議の開催を通じ、普遍的視点のみならず、個別的視点からのアプローチを含めた協議を深めることができた。</p> <p>(課題) 人権教育を推進していくにあたっては、人権教育への認識の深化と指導力の育成が必要である。 特に同和問題の本質に関わる研修等、教職員相互の研修の積み重ねが出来る体制の確立と、希望進路の実現に向けた取組の充実を更に目指していくことが重要。</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>2 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる</p> <p>(2) 学校教育の充実</p>	<p>学校教育課</p>	<p>B</p>	<p>B</p>

2. 豊かな人間性を育む教育の推進

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(3) 生徒指導	<p>生徒指導 (内容) 児童生徒の個性の伸長と社会的資質の育成を目的とし、これらの基盤となる児童生徒と教職員、児童生徒相互の深い信頼関係の醸成に向けた取組を進める。 一方、不登校や問題事象に対処し課題解決を図るための有効なガイダンス機能の充実を図った。</p> <p>(対象) 市内児童生徒</p>	<p>(成果) 生徒指導に係る問題事象等に関しては、月例的に、市教委と学校間での情報共有を図る取組を継続してきた。また、各校の生徒指導主任を対象として、ガイダンス機能の充実と、学びあう学級集団の育成、問題事象への具体的対処方法に関する情報交流の場を設定したことにより、学校秩序が安定した状況で学校が運営された。</p> <p>(課題) 各校の更なるガイダンス機能を高めることと、生徒指導上の問題事象を早期発見し、早期指導を行える組織体制の充実が、今後の課題である。</p> <p>注：ガイダンス機能 生き方、考え方、学び方、適応能力などを主体的に確立していくことへの支援。</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>2 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる</p> <p>(2) 学校教育の充実</p>	学校教育課	B	B

2. 豊かな人間性を育む教育の推進

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(4) 芸術文化活動	<p>芸術文化活動 (内容) 教育活動の中で伝統文化を学ぶ機会を拡充し、我が国及び諸外国の文化や伝統を尊重する態度の育成を図った。また、授業や部活動などにおいて豊かな心を育むため、優れた地域の芸術家や芸術文化活動の指導者などと教職員が協力して指導を行った。</p> <p>(対象) 市内児童生徒</p>	<p>(成果) 授業や部活動において外部人材や団体等を活用し、児童生徒が我が国の伝統文化にふれる機会を充実させることが出来た。また、府の実施する「京の子ども夢・未来体験活動推進事業」の中で文化・芸術が生み出される実際の中に出かけ、子どもたちの豊かな感性を育むことが出来た。 昨年に引き続き、京都伝統工芸大学校と連携しながら「南丹美術工芸教育展」に作品を出品することができた。</p> <p>(課題) 積極的に府や国の事業を活用し、児童・生徒が文化活動のすばらしさを知る機会を充実するとともに、国民文化祭「南丹ものづくりの祭典」と連携する等伝統文化学習の機会を拡充していく必要がある。</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>2 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる</p> <p>(2) 学校教育の充実</p>	学校教育課	B	B

2. 豊かな人間性を育む教育の推進

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(5) 体育・スポーツ活動	<p>体育・スポーツ活動 (内容) 生涯を通じて体育・スポーツ活動に親しむことができる能力や態度の育成に向け、各校において、特色ある学校体育の充実を目指した取組や、競技スポーツの特性にふれさせることで、競技力の向上を図る教育活動を展開した。併せて、社会教育部門におけるスポーツ活動への参加促進を図った。</p> <p>(対象) 市内児童生徒</p>	<p>(成果) 各校の特色を生かした体育・スポーツ活動を展開した。 中学校においては、府教育委員会の「地域スポーツ人材の活用実践支援事業」を活用した外部指導者の配置により、クラブ活動の充実を図った。</p> <p>(課題) 児童生徒の体力の向上に向けた取組を更に充実させる必要がある。取組にあたっては国や府の学校教育におけるスポーツ振興や運動部の活性化を進めることを趣旨とした事業メニューを活用しながら進めることを考慮したい。 今後、遊びや運動の楽しさや喜びの体験を通じた体力づくりの推進が図られるように支援していく必要がある。</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>2 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる</p> <p>(2) 学校教育の充実</p>	学校教育課	B	B

2. 豊かな人間性を育む教育の推進

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(6) 健康安全 教育	安全対策事業 (内容) 新園児・新1年生に交通安全黄帽子・防犯ブザー・防犯鈴を配布した。 (新園児、新1年生249人) 中学生自転車通学ヘルメット購入費の半額補助を行った。(124名分) 市立幼稚園の新園児、小学校1年生、自転車通学中学生のヘルメット購入者	(成果) 安全のために子どもに防犯ブザーや防犯鈴を常時携帯させた。また、ヘルメット・安全帽子によって子供たちの通学(園)の交通安全対策を講じることができた。子供たちの安全確保には、地域の協力が必要であり子供見守り隊や多くのボランティアの協力を得て通学等についての安全確保ができた。 (課題) 取組みの拡充と、危機管理体制の充実が課題である。	第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る 2 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる (2) 学校教育の充実	学校教育課	B	B
	学校給食施設管理運営事業 (内容) 安全で安心して食べられる給食の提供と、児童生徒の日常生活における食事について正しい理解と望ましい習慣を養うため実施した。地産地消の奨励により地元産米・減農薬で生産された野菜を給食に取り入れた。給食施設については、調理備品の更新や各調理場の施設の改善に努め、施設の充実と衛生で安全な環境づくりに努めた。 (対象) 市内小学校児童・美山中学校	(成果) 地産地消の推進を図るとともに、食材の検収や衛生管理体制の確立を図り、安全・安心で栄養バランスの取れた学校給食を提供することができた。また、アレルギー児童への対応に努めるとともに、栄養教諭等が学校と連携して食育指導を充実した。 (課題) 美山では中学校給食を実施しているが、他の中学校の実施にあたっては、環境整備や学校運営上の問題等の課題がある。 また、調理場施設が、老朽化しているところもあり、改修していかなければならない。加えて、調理業務等の一部委託も検討していく必要がある。			B	

3. 社会の変化に対応する教育の推進

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(1) 国際理解教育	外国青年招致事業 (内容) 外国語指導助手（ALT）を配置し、市内小・中学校において日本人教員とともに児童生徒に対して英語活動・英語教育の指導を行なった。 (対象) 市内児童生徒 美山地区、日吉地区を中心	(成果) 該当ALTが契約満了により7月に帰国したため、事業は終了した。新たなALTの配置は安定した人員配置のできる小・中学校英会話事業により行う。 (課題) 本事業によるALTは帰国し、本事業は終了した。平成22年度は小・中学校英会話事業によりALTの配置を行う。	第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る 2 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる	学校教育課	B	B
	小・中学校英会話事業 (内容) 中学生と小学校5年・6年を対象として、中学生の英語教育の充実及び小学生の国際理解教育を始めとする英語活動の推進を図るため、2名のALTを配置した。 (対象) 市内児童生徒	(成果) 学習指導要領の改訂により、学校教育における英会話の取組の重要性が増している。専門的な指導力を持った質の高いALTの配置により、効果的に授業を進めることができた。 (課題) 委託方式であるので学校長が直接ALTに指示できないなど制度上の課題があるので、形態は見直したい。	(2) 学校教育の充実			

3. 社会の変化に対応する教育の推進

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(1) 国際理解教育	<p>外国語活動実践研究事業 (内容) 胡麻郷小学校を実践研究校として指定し、英語活動における「英語ノート」等の効果的な活用や評価の在り方等に係る研究推進を実施した。</p> <p>(対象) 市内児童生徒</p>	<p>(成果) 拠点校である胡麻郷小学校を中心にALTや地域人材等を活用した実践的な取組を推進し、研究発表会などを通して、市内全体の水準の向上に努めた。</p> <p>(課題) 担任が中心となる授業や、ALTを活用する授業の在り方が見えつつあるが、今後さらに、児童が主体的に学ぶための、めあてや評価方法について検討していく必要がある。</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>2 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる</p> <p>(2) 学校教育の充実</p>	学校教育課	B	B

3. 社会の変化に対応する教育の推進

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(2) 環境教育	<p>環境教育 (内容) 身近な環境問題に関心を持ち、より良い環境づくりや環境保全に主体的に取り組む態度の育成に向け、学校においては、環境教育にかかわる各教科等の指導内容と関連づけた年間指導計画に基づき総合的・体系的な取組を進めた。また、家庭や地域社会、関係諸機関との連携により、体験的な学習を通じ環境教育を推進した。</p> <p>(対象) 市内幼児、児童生徒</p>	<p>(成果) 各校において、総合的な学習の時間等を活用し、地域性を活用した体験学習やエコ活動等の問題解決的な学習を展開したことにより、環境保全への意識付けができた。</p> <p>(課題) 環境の保全に主体的に取り組む態度の育成に向けて、学校だけでなく家庭とも連携しながら環境問題への意識や考え方を育て高めていくことが重要となる。また、地球全体のことを考え、身近なことから地道に取り組んでいく実践力をつけるための手立てなどについて研究できるよう支援する研修体制づくりも視野に入れる必要がある。</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>2 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる</p> <p>(2) 学校教育の充実</p>	学校教育課	B	B

3. 社会の変化に対応する教育の推進

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(3) 情報教育	<p>情報教育 (内容) 情報通信ネットワークやコンピュータなどの情報手段を用いた問題解決能力の育成にけた学習内容の展開と、プライバシー保護等の体系的な情報モラルの指導に取り組んだ。 併せて、高度化する情報通信に対応したハード機器やソフトウェアの導入を行った。</p> <p>(対象) 市内児童生徒</p>	<p>(成果) インターネット接続等の情報通信環境は、市内全校において整備されており、各教科や総合的な学習の時間を用いて、コンピュータを活用した授業を実施した。また、携帯電話やモバイルサイトを使用する際のモラルの指導等、人権教育や生徒指導との関連からの指導を行った。更に、電子黒板等のICT機器の授業における活用を推し進めた。</p> <p>(課題) 高度化とともに複雑化する情報通信を活用するについて、教職員には情報モラルを含めた指導能力が問われてくる。今後は、研修によるスキルアップや、人権教育・生徒指導領域に関わった効果的な方法について検討する必要がある。</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>2 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる</p> <p>(2) 学校教育の充実</p>	学校教育課	B	B

4. 教職員の資質能力の向上

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(1) 教職員研修	<p>教職員研修事業 (内容) 個々の教職員の実践的指導力の向上を図るため、各校独自の校内研修のほか、市教育委員会主催による研修会を実施した。</p> <p>(対象) 市内園校教職員</p>	<p>(成果) 各種研究委託事業や国の指定事業を活用し、これを各テーマや課題に応じた研修の機会と捉えて、参加を呼びかけた。その結果、授業改善に係る教科のほか、各領域に係る研修の場を設定しての研修会議を実施できた。また、各校・園独自の研修会も展開され、園・校間での交流も一定進んだ。</p> <p>(課題) 今日的な課題をテーマにした研修機会の他にも、市内教職員が共通のテーマとして認識すべき内容に関する研修設定を検討することと併せ、学校・園独自のテーマ設定による研修会に対する指導・支援が必要となると考えられる。</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>2 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる</p> <p>(2) 学校教育の充実</p>	学校教育課	B	B

5. 安心・安全な学校づくり

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(1) 通学対策	<p>通学対策事業 (内容) 遠距離通学のため、バス・JR電車を利用する児童生徒の定期券代について、一定額を超えた分を補助した。</p> <p>(対象) バス・JR電車通学者</p>	<p>(成果) 遠距離通学をする児童生徒の保護者負担の軽減を図るとともに児童生徒の通学の安全確保が図れた。</p> <p>(課題) 遠距離通学者に対する通学援助は、保護者負担の軽減と安全確保を図る上で重要であり、継続が必要である。</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>2 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる</p> <p>(2) 学校教育の充実</p>	<p>学校教育課</p>	<p>B</p>	<p>B</p>

5. 生涯学習社会の実現

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(1) 生涯学習の 振興	<p>講座開設事業(公民館事業) (内容) 「学び、集い、結ぶ」をキーワードに旧町ごとにニーズにあった講座を開設した。夏休み福祉体験講座、高齢者講座、パソコン講習会、映画上映会などを実施し、それぞれが生涯学習の振興に努めた。</p> <p>(対象者) 市民</p>	<p>(成果) 講座や事業により市内住民の交流が図れ、人と人・人とグループが「つどう」講座を開催し、生活に向き合った「学び」を実践する講座及び、これらを「結ぶ」場づくりができた。</p> <p>(課題) 公民館施設の講座開設は生命線であるため、市民ニーズの分析を行いより内容を充実させた開設が必要であるが、限られた人員で今後いかに進めていくことができるかが課題となっている。</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>3 生涯にわたって学び生かす機会をつくる</p> <p>(1) 生涯学習拠点施設の充実</p>	社会教育課	B	B

5. 生涯学習社会の実現

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
<p>(1) 生涯学習の 振興</p>	<p>講座開設事業(博物館・郷土資料館) (内容) 日吉町郷土資料館の屋外展示施設であるかやぶき民家を中心に、体験講座を実施した。 ●平成22年4月29日 アカペラコンサートinかやぶき民家 ●平成22年5月4日 新緑祭（餅つき） ●平成22年8月1日 ミニSL運転会 ●平成22年8月21日 戦争のおはなし ●平成22年11月20日 正月みそをつくろう</p> <p>(対象者) 市民（小中学生、家族）</p>	<p>(成果) 郷土の歴史や文化をより身近に感じ体験してもらうことにより、郷土への理解を深めることができた。</p> <p>(課題) 資料館ならではの特性を生かした事業を実施したが、今後は新規参加者の開拓を行う必要がある。</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>3 生涯にわたって学び生かす機会をつくる</p> <p>(1) 生涯学習拠点施設の充実</p>	<p>社会教育課</p>	<p>B</p>	<p>B</p>

5. 生涯学習社会の実現

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
<p>(1) 生涯学習の 振興</p>	<p>講座開設事業(図書館) (内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児及びその保護者を対象に、図書館・室4施設において「おはなし会」事業や「工作会」「おたのしみ会」を年間100回以上開催し読書活動の推進を図った。 ・子どもの読書活動の推進及び市民の生涯学習の一環として、「子どもの本を楽しもう!」と題して、5回連続講座を開設した。 ・著名な作家を市内の小中学校に招き、生徒・児童と直接交流することで子どもたちの読書意欲の向上を図る事業（オーサー・ビジット事業）を行った。 ・子どもやPTA、ボランティア等を対象に、「読書」「人権」「子育て」など様々なテーマで講演を行うとともに、読書活動の啓発を図るため、図書館職員による出前講座を実施した。 <p>(対象者) 市民</p>	<p>(成果)</p> <p>パソコンやゲームが氾濫する時代に、読書による想像力の醸成や、読み聞かせによる親子の絆を深めることなど「本のちから」を講座により、市民に広めることができた。</p> <p>(課題)</p> <p>今後においては、市民のニーズをより的確に把握することにより、読書に関わっていない世代や市民へのアプローチを検討する必要がある。</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>3 生涯にわたって学び生かす機会をつくる</p> <p>(1) 生涯学習拠点施設の充実</p>	<p>社会教育課</p>	<p>A</p>	<p>B</p>

5. 生涯学習社会の実現

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
<p>(2) 社会教育関係団体などの連携・協力</p>	<p>団体育成事業 (内容) 南丹市社会教育関係団体に対する補助金交付要綱に基づき、社会教育の発展を図るため、社会教育団体の行う事業に要する経費に対し、南丹市補助金等の交付に関する規則に定めるものの他、予算の範囲内で負担金及び補助金を交付した。</p> <p>①京都府中部文化芸術祭実行委員会（負担金） ②南丹市婦人会 ③南丹市PTA連絡協議会 ④南丹市文化協会連絡協議会 ⑤能楽の夕べ実行委員会 ⑥八木公民館サークル連絡協議会 ⑦南丹市青少年育成協会</p> <p>(対象者) 市民(社会教育関係団体)</p>	<p>(成果) 市内の多様な社会教育関係団体等の育成が図れた。</p> <p>(課題) 各団体のニーズや現状の活動状況を再認識し自主的主体的活動として、今後あるべき姿を再構築する必要がある。</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>3 生涯にわたって学び生かす機会をつくる</p> <p>(1) 生涯学習拠点施設の充実</p>	<p>社会教育課</p>	<p>B</p>	<p>B</p>

6. 人権教育の幅広い展開

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
<p>(1) 人権に関する学習機会の提供</p>	<p>人権教育事業(人権教育講座) (内容) 人権に関する学習機会を提供し、市民の人権意識の高揚を図ることを目的として南丹市人権教育講座を4講開催した。 (参加者：283名)</p> <p>第1講（平成22年7月15日 園部公民館） 「連携で防ぐ子どもの虐待」 京都府家庭支援総合センター副所長 柴田 長生 氏</p> <p>第2講（平成22年8月5日 日吉町生涯学習センター） 「障害のある人もない人も暮らしやすい街に」 毎日新聞社論説委員 野沢 和弘 氏</p> <p>第3講（平成22年9月8日 園部公民館） 「婚活時代の結婚差別」 京都教育大学教授 伊藤 悦子 氏</p> <p>第4講（平成22年9月22日 南丹市役所） 「職場の人権意識とコミュニケーション」 京都府立大学教授 中村 佐織 氏</p> <p>(対象) 市民</p>	<p>(成果) 各講座とも、市民の人権意識の高揚を十分図ることができた。</p> <p>(課題) シリーズ的に開催した講座のため、参加者が限定された。幅広い、市民の参加を得るためにも、広報活動等を工夫し、幅広い世代・階層の市民に参加いただけるようにすることが課題である。 会場設定についても、片寄らないよう考えていく必要がある。</p>	<p>第4章 共に担うまちづくりの仕組み</p> <p>1 共に生きるまちづくりを進める</p> <p>(1) 人権啓発の推進</p>	<p>社会教育課</p>	<p>A</p>	<p>B</p>

6. 人権教育の幅広い展開

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
<p>(2) 男女共同参画社会の実現に向けた学習活動</p>	<p>人権教育事業(主任・推進委員研修会) (内容) 地域での人権啓発の指導者育成を図るため、南丹市人権教育・啓発推進協議会の主任人権啓発推進委員並びに人権啓発推進委員を対象とした研修会を旧町ごと2回、また、視察研修を実施し指導者の育成を図った。</p> <p>第1回 各町共通 辞令交付式・啓発ビデオ研修会 (5/18～5/27 旧町ごと)</p> <p>第2回 視察研修 平成22年8月19日 ・立命館大学国際平和ミュージアム ・ツラッティ千本(京都市楽只コミュニティセンター) 38名参加</p> <p>第3回 講演会 120名参加 ・園部・美山会場 (9/28、9/30) 「近年の人権・部落問題意識調査から見る啓発の課題」 部落解放・人権研究所 内田龍史氏 ・八木・日吉会場 (10/5、10/7) 「部落問題から見る多様な人権課題」 部落解放・人権研究所 季 嘉永氏</p> <p>(対象) 主任人権啓発推進委員 人権啓発推進委員</p>	<p>(成果) 人権啓発指導者としての育成が図れ、成果として、市内29会場で自主研修会が開催された。(参加者計762名)</p> <p>(課題) 自主研修会の未実施集落を少なくするためのリーダー養成を継続し、人権意識のさらなる高揚を構築することが課題である。</p>	<p>第4章 共に担うまちづくりの仕組み</p> <p>1 共に生きるまちづくりを進める</p> <p>(1) 人権啓発の推進</p>	<p>社会教育課</p>	<p>B</p>	<p>B</p>

6. 人権教育の幅広い展開

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
<p>(3) 高齢者の生きがいづくりと社会参加</p>	<p>福祉・紅が丘大学、南丹大学 (内容) 高齢者の生きがいを求める学習機会を提供するため、また女性の立場から様々な現在課題を見極める能力を養うため、高齢者大学として「日吉福祉大学」、女性大学として「紅が丘大学」を日吉地域において開催。また、豊かな経験を持つ高齢者が、その上に新しい知識を身につけ、教養を高め、社会参加を図り、高齢者相互の連携を強める中で、自らが生きがいある生活を行うことを目的に八木地域で「南丹大学」を開催した。 「福祉・紅が丘大学」受講生170人 「南丹大学」受講生183人</p> <p>(対象) 市民（高齢者・女性）</p>	<p>(成果) 自らが「学ぶ、集う、結ぶ」場として正に本来の生涯学習事業としての展開ができた。 具体的には豊かな経験を持つ高齢者が、その上に新しい知識を身につけ、教養を高め、社会参加を図り、高齢者相互の連携を強めることができたとともに自らがいきがいのある生活を送るための気運を高めることにつながった。</p> <p>(課題) 今後益々高齢者が増える中、ニーズの多様化に応える講座メニューの構築と、自主的主体的な企画運営への参画意識を図ることが課題である。</p>	<p>第4章 共に担うまちづくりの仕組み</p> <p>1 共に生きるまちづくりを進める</p> <p>(1) 人権啓発の推進</p>	<p>社会教育課</p>	<p>B</p>	<p>B</p>

6. 人権教育の幅広い展開

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
<p>(4) 障がいのある人の自立と社会参加</p>	<p>障害者成人講座 (内容) 障がいのある人の社会的見聞や知識を深めるために施設見学や制作活動を行い、社会参加を促した。</p> <p>■聴覚に障がいのある人を対象にした講座 ○ニュースポーツ体験（囲碁ボール、フロアカーリング） (7/16 園部スポーツセンター) ○防災体験、おたべづくり体験 (9/7 京都市市民防災センター、(株)おたべ) ○秋の散策等 (10/25 出雲大神宮、保津コスモス園、保津川あられ並河工場) ○寄せ植え教室 (12/14 道の駅「京都新光悦村」) ○料理教室 (2/22 八木公民館)</p> <p>■視覚に障がいのある人を対象にした講座 ○見学、茶かぶき体験 (7/6 源氏物語ミュージアム、宇治茶道場「匠の館」) ○手作りソーセージ教室、バラ園散策 (10/8 美山おもしろ農民倶楽部、美山町自然文化村) ○音楽鑑賞「園部吹奏楽団」 (3/13 園部公民館) (対象) 市民(障がいのある人)</p>	<p>(成果) 障がいのある人の社会進出の促進を図り、また、人間関係のつながりも広まった。 具体的には日頃、訪れる機会がない場所に出掛け知識や見聞を深め、社会進出につなげる一翼を担うことができた。 また、相互の交流、ボランティアで参加している人とのつながりを講座の中で重視し、障がいへの理解を深めることにつながった。</p> <p>(課題) 様々な障がいのある人のニーズに応えるメニューの構築を工夫することと、ボランティアや福祉関係者との連携を図ることが課題である。</p>	<p>第4章 共に担うまちづくりの仕組み</p> <p>1 共に生きるまちづくりを進める</p> <p>(1) 人権啓発の推進</p>	<p>社会教育課</p>	<p>A</p>	<p>B</p>

7. 家庭・地域社会の教育力の向上

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
<p>(1) 家庭教育力の向上</p>	<p>家庭教育支援事業 (内容) 家庭の教育力の低下、少年非行や児童虐待の深刻化、少子化の急速な進展、子どもの基本的生活習慣の乱れなどに対応するため、家庭教育支援など家庭の教育力の向上に向けた事業を、小中学校・PTAなどとの連携により、市内2幼稚園、5小学校、2中学校で延べ18回、健康教室や人権講演会、性教育講演会、子育て講演会などを実施した。</p> <p>(対象) 市民（幼・小・中の子どもを持つ保護者及びその家族）</p>	<p>(成果) 子どもの成長段階に応じた家庭教育の重要性を認識していただき、今後の子育てに役立たせる一翼を担った。また、各学校（園）において実情にあった講座等の内容を企画し、子どもたちの健全育成のため親の不安軽減と家庭教育力の向上につなげることができた。</p> <p>(課題) 日常的な事業波及効果の把握が困難であることと、各家庭の生活の多様化等の理由から家庭の教育力が益々低下することが危惧される状況の中で、今後、PTA組織と連携し、家庭教育の充実を図ることが課題である。また、より多くの保護者の参加を促すため、講座の周知と内容の充実を図る必要がある。</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>1 安心して子育てできるまちをめざす</p> <p>(1) 地域主体で子育てを支援する仕組みづくり</p>	<p>社会教育課</p>	<p>A</p>	<p>B</p>

7. 家庭・地域社会の教育力の向上

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
<p>(2) 地域社会の教育力の向上</p>	<p>青少年活動事業 (内容) 学校週5日制など教育を取り巻く環境が変化中、豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもの育成を図るべく、京都府の委託並びに補助事業を活用して、こどもたちの体験シリーズとしての「なんたんわくわくキッズ」、和太鼓の伝承と発表を行った「なんたんビートフェスティバル」、土、日曜日を中心に自然体験や地域学習を実施した「放課後こども教室」事業を実施した。</p> <p>(対象) 市民（青少年）</p>	<p>(成果)</p> <p>◇なんたんわくわくキッズ（8回開催） 参加者は様々な体験を通じて豊かな感性を育み、また多くの知恵を学んだ。また協調性や連帯感も育てることができた。</p> <p>◇なんたんビートフェスティバル 実行委員会制により開催し、市内小中学校、府立淇陽学校等、学校関係9団体、市内のサークル2団体の合計11団体222名の参加により、盛大に開催することができた。</p> <p>◇放課後こども教室（15回開催） 地域社会の中で子どもたちの豊かな心を育てることにつながった。</p> <p>(課題)</p> <p>◇なんたんわくわくキッズ 市域が広域であるため、参加者の活動体験が異なり、参加が一部の学校の児童に集中する傾向がある。</p> <p>◇なんたんビートフェスティバル 実施時期について学校行事との調整が課題である。</p> <p>◇放課後こども教室 指導者並びにボランティアスタッフの確保が課題である。</p> <p>◇学校休業日は子どもたちのスケジュールが過密であり、事業実施日の調整が難しい。</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>1 安心して子育てできるまちをめざす</p> <p>(1) 地域主体で子育てを支援する仕組みづくり</p>	<p>社会教育課</p>	<p>B</p>	<p>B</p>

7. 家庭・地域社会の教育力の向上

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
<p>(2) 地域社会の教育力の向上</p>	<p>放課後児童健全育成事業 (内容) 児童福祉法第6条の2第12項の規定に基づき、保護者の就労等により放課後の家庭保育が欠ける児童に対し、適切な遊び及び生活の場を与えることにより、その健全な育成を図るため、放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）を市内6ヶ所で実施した。</p> <p>(対象) 市民（小学校1～3学年に在学児童）</p>	<p>(成果) 子育て支援事業として多大な成果を上げている。家庭に代わり放課後における子どもの健全育成を図る場となっている。</p> <p>(課題) ・適切な生活の場としての十分な機能をもった開設場所の確保が必要。 ・子どもへのしつけなどに関する家庭教育の低下が危惧されるため、指導員と家庭とのより細かな連携が求められている。 ・障がいのある児童の受け入れ体制が課題である。 ・放課後児童健全育成事業は児童福祉法に基づく子育て支援であり、今後所管の検討が必要。</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>1 安心して子育てできるまちをめざす</p> <p>(1) 地域主体で子育てを支援する仕組みづくり</p>	<p>社会教育課</p>	<p>A</p>	<p>B</p>

8. 文化・スポーツの振興

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(1) スポーツ	体育指導員活動事業 (内容) 体育指導委員規則により25名の委員を委嘱し、誰でも気軽にできるスポーツの普及活動、市民のスポーツに対する意識調査、会の活動を知らせる広報活動等を行った。 (対象) 市民	(成果) 誰もが気軽にできるスポーツとしてビーチボールバレーの普及につながった。 (課題) 市域が広域すぎるため、活動の範囲が制限され、計画的・継続的实施が課題である。	第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る 3 生涯にわたって学び生かす機会をつくる	社会教育課	B	B
	社会体育振興事業 (内容) 第13回日吉ダムマラソンとして、新たな展望を見出した他、旧町ごと市民が参加しやすい事業を展開した。 ※第14回大会(23年4月)は、東日本大震災の影響により中止となった。 (対象) 市民	(成果) 参加が増加して過去最大となるなど、市民ニーズに応じた事業展開となった。また、他府県からの参加が多く、イベント的な事業として交流が図れた。 (課題) 市民全体を対象とした事業での開催が困難であり、他府県参加者のイベント事	(4) スポーツレクリエーション活動の振興			
	青少年スポーツ育成事業 (内容) 野球、サッカー、卓球等で青少年の競技力向上のための教室を実施した。 (対象) 市民(小中学生)	(成果) プロの指導者から学ぶことにより、正確な練習方法を学んだ他、競技意欲が向上した。 (課題) 市民全体を対象とした事業として参加者の促進を図ることが課題である。				
	団体育成事業 (内容) 南丹市体育協会並びに南丹市スポーツ少年団に対し補助金を交付した。 (対象) 南丹市体育協会 南丹市スポーツ少年団	(成果) ニーズにあった熱心で活発な事業展開がなされ、青少年の健全育成につながった。自主的主体的な活動として実施されている。 (課題) 地域と連携した、地域スポーツを活発化させる必要がある。	第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る 3 生涯にわたって学び生かす機会をつくる (2) 生涯学習推進組織の育成強化			

8. 文化・スポーツの振興

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(2) 文化活動	<p>文化祭事業</p> <p>(内容) 文化意識の高揚を図ることを目的に旧町単位で、各種文化サークル・文化団体等に発表の場を提供した。また映画会等を実施し心を豊かにする文化、ふれあいを可能にする文化の創造をめざした。</p> <p>(対象) 市民、文化団体会員、文化サークル会員</p>	<p>(成果) 多くの市民の参加を得ることで市民協働が図れた。自主的主体的なサークル活動が発展した。</p> <p>(課題) 市全体としての統一事業の開催を拡充していくことが課題である。（総合開会式の開催他）</p>	<p>第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る</p> <p>3 生涯にわたって学び生かす機会をつくる</p> <p>(5) 生涯学習推進組織の育成強化</p>	社会教育課	B	B
	<p>文化協会連絡協議会事業</p> <p>(内容) 本年度においては、各旧町でこれまで積み重ねられた事業を尊重し、地元に着した形の事業を展開した。また4町合同の取組として南丹ものづくりの祭典への共同出品を企画する中で市としての新たな交流の輪が広がった。</p> <p>(対象) 市民、文化協会会員</p>	<p>(成果) 旧町の独自性にこだわることなく、垣根を越える取組として、徐々に交流の輪が広がっている。</p> <p>(課題) 文化協会連絡協議会から南丹市文化協会の設立に向けた更なる事業展開となることが課題である。</p>				

8. 文化・スポーツの振興

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(3) 文化財の保護と活用	文化財保護事業 (内容) 文化財保護の認識と理解を深めるため消防署の指導により、文化財防火デーに防火訓練と施設点検を実施した。 天然記念物に指定されているアユモドキの生息確認調査を行った他、八木町内の建造物調査や新たな文化財指定に向けた天然記念物（樹木）の調査を行った。	(成果) 貴重な文化遺産の保護を地域住民の自覚で実施される支援活動となった。 アユモドキの生息確認調査では、1個体を発見することができた。	第2章 自然・文化・人を活かした郷を創る 5 伝統文化を継承する	社会教育課	B	B
	(対象) 文化財所有者、関係者	(課題) 所有者や関係者の高齢化等により、文化財保護の理解を継続して行っていくのが難しい状況にある。	(1) 歴史文化遺産の調査と保全			
	文化資料保全補助事業 (内容) 国指定・府指定・府登録文化財及び市指定並びに未指定文化財においても、文化資料の保全となるよう補助金を交付してその保全を図った。本年度においては14団体において補助金の交付を行った。	(成果) 貴重な文化財の継承・保存ができた。			B	
	(対象) 文化資料保全対象者（所有者）	(課題) 所有者と調整を行うことで、計画的な事業執行が必要である。				

8. 文化・スポーツの振興

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(3) 文化財の保護と活用	<p>かやぶき屋根保存修理事業 (内容) 南丹市かやぶき屋根保存事業補助金交付要綱に基づき、南丹市（美山町限定）に現存する北山型住宅のかやぶき屋根を保存し、美しい町並み集落景観を守るため、これの保存を目的とする事業に要する経費の一部として予算の範囲内で補助金を交付した。本年度は5件の葺き替え事業の補助を行った。</p> <p>(対象) かやぶき屋根民家所有者</p> <p>※H22年度は「地域経済対策事業」において、別に2件の補助を行った。</p>	<p>(成果) 美しい町並みと集落景観の保存につながった。また、このことにより、市の観光のメインスポットとしても維持されることで、文化財としての活用も大いに図られている。</p> <p>(課題) 屋根の葺き替えは、雨漏りを防ぐ意味からも緊急を要する事業であるが、年間計画の中で実施できる事業数に限度があり、待機民家が多く残る現状である。</p>	<p>第2章 自然・文化・人を活かした郷を創る</p> <p>1 豊かな緑と清流を守る</p> <p>(6) 森・里・街の景観保全</p>	社会教育課	B	B
	<p>重伝建地区保存修理補助事業 (内容) 伝統的建造物群保存地区（美山町北）における建造物及び環境物件（石垣等）の修理・修景について、所有者等に対しその経費の一部を補助要綱に基づき交付した。本年度は5事業の補助事業を実施した。</p> <p>(対象) 美山町北伝統的建造物群保存地区内の建造物等の所有者</p>	<p>(成果) 美しい町並みと集落景観の保存につながった。また、このことにより、市の観光のメインスポットとして活用も大いに図られている。</p> <p>(課題) 選定以後16年が経過し、各所有者が高齢化したことで、後継者等、今後の集落維持が喫緊の課題である。</p>	<p>第2章 自然・文化・人を活かした郷を創る</p> <p>5 伝統文化を継承する</p> <p>(2) 歴史文化遺産の周知と活用</p>			

8. 文化・スポーツの振興

評価項目	事業内容・対象者	成果（評価）・課題等	総合振興計画実施計画	担当課	内部評価	総合評価
(3) 文化財の保護と活用	埋蔵文化財調査事業 (内容) 南丹市八木町野条遺跡におけるほ場整備に際して遺跡発掘調査を行った。また、野条遺跡発掘調査における整理報告書を作成した。 (対象) 発掘調査八木地区	(成果) 南丹市内の歴史的文化遺産の調査と保全が図れた。 (課題) 南丹市内の歴史的文化遺産の今後の周知と活用を課題としている。	第2章 自然・文化・人を活かした郷を創る 5 伝統文化を継承する (1) 歴史文化遺産の調査と保全	社会教育課	B	B
	展示会事業 (内容) ■文化博物館 ○夏季特別展（日吉町郷土資料館との共催展） 「鉄道～果てしなく続く路～」 ○工芸品展示会（南丹ものづくりの祭典、南丹文化ジョイントプログラム） (対象) 市民	(成果) 歴史的文化遺産の周知とその活用が図れた。特に夏季企画展では、京都～綾部間開通100周年を記念して展示会を開催し、内容について連続性のあるものとなるよう、文化博物館、郷土資料館それぞれにおいて工夫を凝らし、来館者の好評を得た。 (課題) 南丹市にちなんだ展示会が開催できる調査準備期間と人材の確保が課題。展示会のテーマ等について市民の意見を取入れる工夫が必要。	第2章 自然・文化・人を活かした郷を創る 5 伝統文化を継承する (2) 歴史文化遺産の周知と活用			